

景況レポート 9月

9月の県内景況は、3ヶ月ぶりに前月比で好転となった。「売上高」「収益状況」など7項目のDI値が改善したものの、依然として低い数値にある。

情報連絡員による平成29年9月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は13.8%（前月比+3.3）となっており、「横這い」は34.5%（同-2.3）、「低調」とするところが51.7%（同-1.0）、業界全体の「景況感DI」は-37.9%（同+4.2）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」の7項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、食料品製造業、木材木製品製造業、鉄工機械製造業、卸売業、商店街、サービス業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、22.4%（前月比+1.3）と増加しております（好転の回答1件、やや好転の回答12件）（製造業8、非製造業5）。一方、変わらないは、55.2%（前月比-4.4）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、22.4%（前月比+3.1）と増加しております。

平成29年9月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率96.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-14.29	-14.29	0.00	0.00	-28.57	14.29	-28.57	-28.57	0.00	0.00	-28.57	-28.57
繊維製品製造	33.33	0.00	0.00	0.00	33.33	0.00	33.33	33.33	-33.33	-33.33	0.00	-33.33
木材木製品製造	25.00	-25.00	0.00	-25.00	25.00	-25.00	25.00	-25.00	0.00	0.00	25.00	-25.00
鉄工機械製造	20.00	40.00	0.00	-40.00	-20.00	-40.00	-20.00	-20.00	0.00	-40.00	20.00	0.00
その他の製造	-14.29	-71.43	0.00	0.00	-57.14	-42.86	-42.86	-28.57	0.00	28.57	-28.57	-42.86
卸売業	-50.00	50.00	-25.00	0.00	0.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00
小売業	-50.00	-25.00	25.00	50.00	-25.00	-50.00	-50.00	-50.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00
商店街	40.00	-20.00	20.00	-20.00	-40.00	-40.00	-20.00	-40.00	0.00	0.00	0.00	-20.00
サービス業	-14.29	0.00	14.29	14.29	-14.29	14.29	-28.57	14.29	-28.57	-14.29	-28.57	-28.57
建設業	0.00	-40.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00
運輸業	0.00	-100.00	0.00	0.00	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-66.67

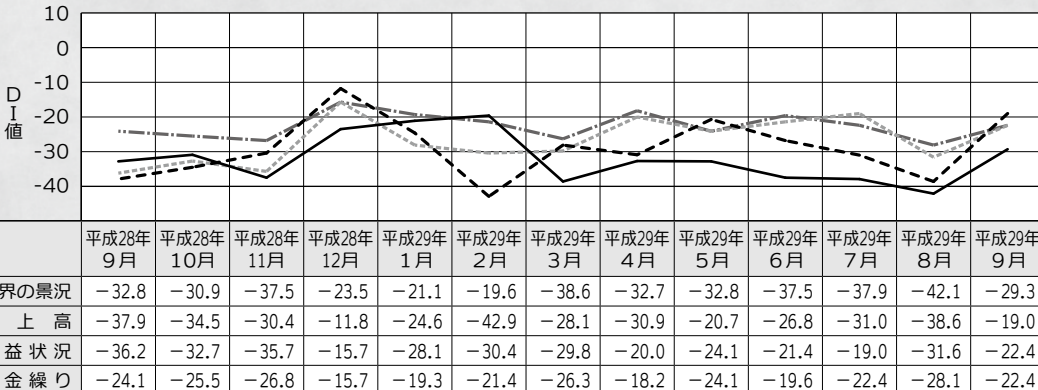
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成28年9月～平成29年9月）



食料品製造業

<漬物>

良い会社と悪い会社が、はっきりとしてきた。全体として、中小企業は人手不足、後継者問題、相続の難しさで、厳しい運営になってくると思われる。

<味噌醤油>

味噌醤油の出荷量は昨年と比較し減少傾向。昨年度比で味噌・醤油とも3%減で、前月比は横ばい状況と低迷が続く増加の兆しが見えない。震災前の取引先の回復は7年目を迎えたにも拘わらず現実には厳しい。

<菓子>

国産小豆の不足が続いている。北米小豆の輸入枠の拡大を求めたいと思う。

<酒造>

特定名称酒の伸びが好調である。イベントも徐々に増え、日本酒のシーズンが到来となったが、原料である酒造米の価格が上昇気配で今後の使用数量に変化があるかもしれない。

<食品団地>

今月中旬までは安定した生産稼働であったが、お彼岸の連休にかけて季節商品の生産管理が難しく、売上は低調だった。今後も経済環境の変化や原油価格の変動等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<ニット>

国内生産の割合が一段と少なくなり、受注に影響し仕事を確保するのに厳しい状況である。一部の良好な企業も含め、従業員の高齢化が進んでいるので、製造面において、今後の課題である。

<縫製品>

同じ繊維・縫製業種であっても、取扱アイテムにより、温度差がかなりある状況。

木材・木製品製造業

<製材業>

雨の影響により出材が減少しているが、工場は一定の在庫が有り需給は安定している。県内需要は、復興公営住宅等一定の引き合いはあるが、一般住宅向けは鈍い。県外向けは、土木向け引き合いも上向きであり出荷は堅調である。

<外材輸入>

需要期に入り荷動きは好調ではあるが製品の販売価格は横ばい、現地価格が上げ基調なので厳しい状態が続いている。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

紙器業界においては物流問題が顕著化している。紙器及び段ボール箱小ロット製品の配送にあつては人手不足が深刻な状況に陥っている。このままではお取引様への円滑な製品供給に支障をきたす可能性があることから当業者としては配送を取り巻く環境改善を進めることが喫緊の課題ととらえている。

印刷

<印刷業>

需要が低迷し、競争も激化していることもあり、利幅縮小傾向である。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- 1 当月売上数量 ・前月比 約18%増
- 2 " ・昨年同月比 約10%減
- 3 本年度売上数量・昨年対比 約14%減
- 4 現状・現状

全般的に碎石を使う公共工事が少なかったが、西道路への納入が多かったので助けられた。

<生コン>

平成29年9月の組合員生コン出荷数量は、181,402m³と対前年同月比+16.4%。出荷数量の内訳は、民需が前年同月比+0.2%、官公需が+26.5%であった。

○民需の動向

対前年同月比 +0.2%

対前年同月比増加地区

県中地区：+11.4% 旅館ホテル増築工事、マンション新築工事等

いわき地区：+23.3% ショッピングモール小名浜建設工事、小名浜道路（ネクスコ分）下部工事等

対前年同月比減少地区

県北地区：-1.4% 市内病院新築工事、テレビ局新社屋整備事業等

白河地区：-20.7% マンション建築工事等

相双地区：-0.1% 広野火砕石炭貯蔵施設、LNGタンク新築工事等

会津地区：-17.7% マンション、老人ホーム建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 +26.5%

対前年同月比増加地区

県北地区：+39.8% 福島市体育館新築工事、東北中央自動車道桑折高架橋工事等

相双地区：+40.4% 福岡、浪江消防署庁舎建設工事、国道140号戸渡トンネル工事等

会津地区：+76.8% 砂防施設工事、会津美里町役場新築工事等

対前年同月比減少地区

県中地域：-15.9% 郡山市西田学園、須賀川市ゴミ処理担当施設工事等

白河地区：-35.8% 道路橋梁工事等

いわき地区：-1.1% 港湾災害復旧、市内共立病院新築工事等

鉄鋼・金属

<鉄工工業>

(県中地区) 県内では、中通りの仕事量が減少している。元請業者の受注量が減少したことにより昨年より加工費が下がっているが秋口より、近県やいわき・相双地区の仕事が増加しており、多少、状況が改善されてきた。

(相双地区) 震災後の復興時には、全国よりたくさんの労働者が集まり賑わっていたが、今は仕事も少なく、大変不安定な状況になっていると思う。

一般機器

<各種プラント機器>

プラント設備関連業界は、売上高が前月比で15%の増、前年同月比に於いては2.2倍と大きな値を見せたが、前年累計比では未だ84%と低調な状態である。

工事案件は前月増加の反動で減少傾向にあり、不安感が残る状況にある。

その他の製造業

<漆器>

会津まつりがあったにもかかわらず、連休の売上は良くなかった。10月21、22日に開催される「会津ものづくりフェア」で、会津漆器協同組合、本郷焼事業協同組合、会津若松酒造協同組合、福島県ハイテクプラザ会津若松支援センターの4者で「日本酒を楽しむ」をテーマに展示を行なう。市民に地場産業の活力をアピールしたい。

卸売業

<卸売業>

9月は原油価格が値上がり傾向にあり、ガソリン等の石油製品に関して価格転嫁できない厳しい状況にあった。大手元売り各社が合併したこともあり、価格競争が起こりにくい環境になったが、今後プラスに動くかマイナスに動くかは何とも言えない。いずれにせよ、今後ガソリン等の市場は、低燃費車両の増加、人口減少などにより縮小することは明らか。ガソリンスタンドの経営は油外製品の販売拡大、電気自動車への対応環境整備、コンビニ併設などに比重がおかれることになるだろう。建築資材の復興需要は、今年の春ごろに終わったというのが大方の見方。但し、いわき地区は別。生コン価格等を例にとれば、県中地域よりもいわき地区は5割増しになっているとの話も聞く。人手不足は、依然として続いている。特に営業職の確保が難しい。

<再生資源>

アジア向け輸出古紙価格が更に下落、国内需要の低下も相まって、国内価格は更に下がる様相。好調な鉄スクラップ市場も天井感が出始めており、今後の動きが注目される。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上がり、売上高は増えた。

小売業

<共同店舗>

(Oショッピングセンター)

今月は、イベントを実施、秋彼岸帰省客に期待したが、昨年同様に終わった。イベントの形を工夫していないと、集客に繋がらない。次月は、稲刈りシーズンに突入、来店客数が減る見込み。

(Nショッピングセンター)

今後の売上を左右する米の収量に不安があり、売上の増加が見込めきれない。

<石油>

9月、2週以降元売仕切が上昇している。原油価格の上昇に加え、為替の円安傾向が重なり、今後更に上昇すると思われる。

<水産物>

今がシーズンのサンマ、イカ、秋サケの入荷が少なく、例年より高騰、高いと魚が食卓に出る回数が減り、売上に大きく影響。

<青果>

価格の高騰も徐々に落ち着いてきているが、なかなか取扱が増加にならず、秋彼岸もあったが取引量が増えなかった。山菜類の取扱や会津身不知柿の取引も来月にかけ始まってくるので少しでも取扱が増加する事に期待したい。

<家電>

夏場の異常天候のためエアコンを中心に8月中旬より販売に影響し売上減少になった、10月11月の個展、合展に期待したい。

商店街

<福島市>

大型小売店の閉店ならびにアーケード撤去工事に伴う地下歩道南側(中合側)出入り口の一時閉鎖により、通りの北側と南側における歩行者が明らかに減少。イベントなどへの来街者は増加している様だが、既存店舗への来客が増えることは無かった感がある。

<郡山市>

景気の回復はまだ感じないが、それでも今月は百貨店の物産展のおかげで久しぶりにプラスに転じた。10月も物産展があるため、この状況が続いてくれればと願う。ただ、一時的によくなったカラスの糞害は最近またひどくなり、今までと同じ手法では効果がなくなってきているよう。今後の対策が必要である。

<南相馬市>

プレミアム商品券が発行され、3ヶ月目に入りお客様の声は、おおむね好評価である。小売専門店での利用額も多く、新規顧客の取り込みが上手くいっていると考えられる。当組合でも、10月1日よりスタンプラリーを開始して、11月3日の大抽選会にそなえ準備中である。

<いわき市>

涼しくて秋の訪れも早く、商店街にとっても十分な条件が揃ったにもかかわらず、来街者は少なく、厳しい9月であったとの声が多かった。大型商業施設の売上は順調であるのに対し、商店街の物販は低調。この構図が2年前から急速に進んでいる。物販の新規出店はまったく無く、出店する飲食店も夜の営業のみ。昼間の来街者を増やしたいが、策がない。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

9月は昨年同月と比べて天候も良く、週末の人は良かった。宿泊入込では平日が前年より落ち込んでいる。景気はゆるやかに上昇していると言われているが、ゆるやかに低下している。実感が無いというマインドである。人手不足の旅館が多く、営業もままならない旅館が出始めている。

<美容業>

前月の長雨でサロンへの出足が鈍く、天候の回復を待った結果消費が冷え込んでしまったが、今月の県内消費はやや良となった。今の美容業界の消費者は、年代によって大きな考えの相違があり各施設の経営感覚や消費者の思考を分析する能力などによって大きく売上が分かれる時代。経営感覚をしっかり持ち、情報や「地域の施設状況や経営手法」を読み取ることで益々売上などに影響するために、マーケティング「消費者実態分析」など今後も力を入れる必要性を強く感ずる業界の昨今である。

<理容業>

今月も思ったような売上にはならなかった。残暑も厳しい日が少なかったし、夏メニューものびなかった。涼しくなると客足も落ちる。例年にくらべても落ち込みが大きかった。その分10月に期待したい。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月同様の売上を見込んでいます。雇用については組合員各社でも人材の確保については苦慮している。先月に続き応募は若干あるものの採用には至っていない。

建設業

<建設業>

(県南地区)

受注減少が継続しているため、地元の中小建設業者が疲弊してきている。除雪や災害時に頼りにされてきたが、従来どおりの期待に応えられなくなってきている。民間工事も低迷したままで、全体としては低調な状態から脱出できる気配がない。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請は減少。前年同月累計

比でも、給水・排水設備申請とも減少している。

<専門工事>

仕事的には、公共事業を控えて利鞘の大きい復興事業ばかり手がけてきた業者が、復興事業の減少に伴い公共事業への参入を画策して安値受注を行っている影響が出始めている。バブルの時と同様、利益を求めて肥大化した体を修正できない企業群に付きあわされるのは甚だ迷惑ではあるが、自分たちに現時点で直接的な影響の出していない者たちは、このような状況を見て見ぬ振りするばかりで、何も改善されない。

運輸業

<ハイヤータクシー>

低調傾向が続いている。